珐瑯細胞ノ萎縮，同層ノ空胞形成，排列不正或ハ造珐瑯細胞層ノ珐瑯質面ヨリ剝離サレ其ノ内ニ滲出物乃至石灰物質ヲ滿シ又珐瑯質ニ於テハ著明ナル空洞形成アリテ甚シキハ珐瑯質ノ全層ガ空洞ノ一群或ハ連鎖トナレルヲ見タリ。象牙質ニ於テハ象牙質層板ノ顯著ナル外石灰球ノ癒合不全ヲ示ス。齒乳頭ニ於テハ造齒細胞ハ一般ニ排列不正ニ陥リ血管ノ怒張ヲ認ム。以上ノ所見ニヨリ山上氏ノ犬齒芽ニ於ケル「アチドーシス」性齒芽疾患ト同様ノ結果ヲ得タリ。(林，森田自抄)

齒 科 外 科

口蓋ニ向ツテ萌出セル犬齒ヲ拔去セント欲スル際ニ，

前手術トシテソノ齒根端切除術ヲ施ス事

Wulzelresektion als Voroperation bei Entfernung gaumenwärts durchgebrochener Eckzähne. von Dr. Josef Lartschneider,
Zeitschrift für Stomatologie, Heft 9, 1930.

上顎犬齒ノ埋伏セルモノヲ拔去セントスル時ニハ，常ニ術者ハ多大ノ困難ニ遭遇ス。

著者ハ左側上顎犬齒ノ埋伏シテ，其ノ齒冠ガ口蓋ニ向ヘルモノ2例ノ手術例ヲ報告シ，其ノ1例ハ拔齒極メテ至難トナリタルヲ以テ，周圍ノ骨ヲ鑿除シ且ツ多少暴力ヲ用キテ拔去セシガ故ニ，拔齒後ノ經過モ不長ナリシガ辛ジテ之レヲ治癒セシメタルニ反シ，第2例ニ於テハ，口蓋ヨリ施セン手術ノ途中ニテ，深ク口蓋側ノミヨリ進ンデ，齒冠ヲ取り出サムトスル事ノ勞多クシテ效果ナキヲ悟リ，改メテ頰側ヨリ犬齒根ニ達シテ之レヲ出來得ル限り多量ニ切除セシ後，更ラニ口蓋側ヨリ齒冠ヲ容易ニ除去スル事ヲ得タリ，後者ニテハ拔齒甚タ容易ナリシノミナラズ，其ノ經過モ亦頗ル良好トナリタリト云フ。即チ著者ハ，埋伏セル上顎犬齒ノ拔去ニ際シテハ先ヅ以テ其ノ齒根ヲ切除シ置クベキ事ヲ推賞ス。(金森)

保存療法科

齒髓壞疽治療補遺

(Beitrag zur Behandlung der Pulpagangrän. von Walter
Roth (Basel) Deutsch. M. S. f. Z. H., H. 14, 1930.)

齒髓潰疽ノ處置及根管充填ノ問題ニ就テハ殊ニ此頃多數ノ業績ガ發表サレテ居ル，根端肉芽腫ヲ外科的ニ根端切除術ヲ施スカ或ハ保存的ニ處置スルニ就キ議論ノ經過ヲ紹介サレタ後，銀根管充填ノ結果ヲレントゲン寫真ニテ比較シ，其好成績ヲ得タ事ヲ示シテ居ル。著者ノ銀ヲ以テスル根管充填法ハ，根管ヲ擴大シ，感染象牙質ヲ消毒シタ後ニ，銀粉ヲ99%「アルコール」ニ浸シタモノヲ充填スル。銀粉ハ Schering-Kahlbaum A.-G., Wien. ニテ發賣サレ，膠質銀ハ M. Spreng,

Zahnarzt, Basel. ニテ得ラレル。充填ス可キ根管ハ豫メ 99%「アルコール」ニテ充シ、少量ノ銀ヲ「アマルガム」輸送器ニテ根管口ニ運ブ。銀粉ヲ根端孔ニ送ルニハ、特別ノ充填器ヲ使用スル。夫ハ Kerr-Reamer ヲ「コントラ、アングル」ニツケテ逆方向ニ廻轉サセル様ナ仕組デ、根端孔ヘ向ツテ渦流ヲ起サセテ、銀粉ヲ根端孔ニ集メタ後、細イ充填器ヲ壓縮シ、可及的緻密ニ銀粉ヲ根端孔ヲ塞ギ、根管ノ大部分ヲ普通ノ如ク、「グッタペルハ」ノ如キモノヲ充填スルノデアル。銀粉ヲ糊劑ニ混和スルト普通ノ充填器ヲ充填ヲナシ得ル便點ガアル。(川上)

補 綴 科

鑄造「ポーセラン」ニ就テ

Rudolf Jeannerat (Bern). Schweiz Monatschrift für Zahnheilkunde

XXXIX Nr. 8. 1929.

現時漸ク使用サレントシツ、アル鑄造「ポーセラン」特ニ彼ノ「子オエルデントーク」ノ長所及ビ短所ニ就キ論議セル論文ナリ、燃燒陶材ノ充填價値ハ、其ノ審美的竝ビニ充填後ノ作用上ニ幾多ノ長所アルハ等シク認メラル、所ナルモ、其ノ製作上ノ操作ガ如何ニモ複雑困難ナル爲メニ、贅澤ナル充填ト見做サル、傾向アルハ蓋シ不止得事實ナリ、既往ヲ顧ルニ、之ノ燃燒陶材ニ代ハル充填材トシテ、色々ノモノガ數ヘラル、1887年ヘルプストニヨル硝子充填ハ、其ノ口腔内ニ於ケル確實性ノ缺乏セル爲メ、直チニ顧ラル、コトナク、更ニメーセル氏(1898年)ニヨル鑄造「ポーセラン」モ亦廣ク應用サル、コトナク影ヲ没セリ、又カイゼル氏(1920—21)ハアル材料ヲ探求セシモ、其ノ不確實性ナルト、鑄造體構造ノ緻密ナラザルノ恨アリ、著者ハ1928年2月以來幾多ノ鑄造「ポーセラン」ヲ「子オエルデントーク」ニテ調製シ之ヲ應用シ、之ヨリ得タル經驗ヲ下ノ如ク述ベタリ、即チ廻轉方法ニヨル鑄造ハ「ポーセラン」ニハ不適當ニシテ、壓迫鑄造法ニヨルヲ優レリト、又「子オエルデントーク」ノ機械的、化學的抵抗力竝ビニ融解點ヲ實驗シ、本材ニヨル窩縁閉塞ハ良好デ、鑄造體ハ膨脹モ收縮モ起ラナイト云フ結論ニ列達セリ、而シテ彼レハ鑄造「ポーセラン」ノ問題ハ之ノ「子オエルデントーク」材ニヨリテ全ク解決サレタリト附言セリ、果シテ然ルカーニ今後ノ實驗ニ待ツト同時ニ是等鑄造用材ノ製造業者ノ努力ニヨリ、永ク充填材トシテノ生命ヲ保タシムル様、製品品質ノ高上ヲ計ルコト肝要ナリ。(長尾)

中切齒缺損ニ於ケル理想的支臺裝置

The lost central incisor—an ideal abutment by L. P. Strean,

D. D. S., Page 938 Dental Cosmos, Sep. 1930.

著者ハ一般ニ知ラレ且ツ應用サレテ居ル所ノ支臺裝置即 Three-quarter crown 及ビ Pinledge attachment ノ兩者ノ長所トスル所ノミヲ取り以テ之レヲ前齒部ノ支臺殊ニ上顎中切齒ニ應用シ